

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	発達と老化の理解 I		必修	1年前期	15コマ30時間
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉養成講座第12巻 発達と老化の理解 中央法規出版				
<b>授業概要</b> 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぶ影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために基礎的知識を学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・成長・発達の原則や影響する要因など基礎的知識を理解できる。 ・ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について理解できる。 ・老年期の特徴と発達課題について理解できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人の一生を「人間の成長と発達の基礎的理解」を習得し、成長・発達の観点から老化を理解して「老化に伴うところとからだの変化と生活」につなげ、介護実践に生かせる授業にしたい。					
1	人間の成長と発達の基礎的知識 ①				
2	人間の成長と発達の基礎的知識 ②				
3	人間の成長と発達の基礎的知識 ③				
4	人間の発達段階と発達課題 ①				
5	人間の発達段階と発達課題 ②				
6	人間の発達段階と発達課題 ③				
7	人間の発達段階と発達課題 ④				
8	人間の発達段階と発達課題 ⑤				
9	人間の発達段階と発達課題 ⑥				
10	人間の発達段階と発達課題 ⑦				
11	人間の発達段階と発達課題 ⑧				
12	老年期の特徴と発達課題 ①				
13	老年期の特徴と発達課題 ②				
14	老年期の特徴と発達課題 ③				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験と小テストの合計点が60点以上を合格とする				
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術の根拠となる知識を習得し、人生のあらゆる段階、とくに老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につなげてほしい。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科																																
授業名,属性	発達と老化の理解Ⅱ	必修	1年後期	15コマ30時間																															
担当教員	小針臣子	背景	看護師																																
授業形態	講義	実務家教員 である																																	
受講ルール	共通ルール																																		
受講条件	特になし																																		
教科書等	最新介護福祉養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版																																		
授業概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぶ影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために基礎的知識を学習する。</p>																																		
狙いと到達目標	<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と、それらがどのように生活に影響を与えるかについて理解できる。</li> <li>・高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的知識を理解できる。</li> </ul>																																		
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>人の一生を「人間の成長と発達の基礎的理解」を習得し、成長・発達の観点から老化を理解して「老化に伴うこころとからだの変化と生活」につなげ、介護実践に生かせる授業にしたい。</p>																																		
授業計画・内容	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ①</td></tr> <tr><td>2</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ②</td></tr> <tr><td>3</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ③</td></tr> <tr><td>4</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ④</td></tr> <tr><td>5</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑤</td></tr> <tr><td>6</td><td>老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑥</td></tr> <tr><td>7</td><td>高齢者と健康 ①</td></tr> <tr><td>8</td><td>高齢者と健康 ②</td></tr> <tr><td>9</td><td>高齢者と健康 ③</td></tr> <tr><td>10</td><td>高齢者と健康 ④</td></tr> <tr><td>11</td><td>高齢者と健康 ⑤</td></tr> <tr><td>12</td><td>高齢者と健康 ⑥</td></tr> <tr><td>13</td><td>高齢者と健康 ⑦</td></tr> <tr><td>14</td><td>高齢者と健康 ⑧</td></tr> <tr><td>15</td><td>科目認定試験</td></tr> </table>					1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ①	2	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ②	3	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ③	4	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ④	5	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑤	6	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑥	7	高齢者と健康 ①	8	高齢者と健康 ②	9	高齢者と健康 ③	10	高齢者と健康 ④	11	高齢者と健康 ⑤	12	高齢者と健康 ⑥	13	高齢者と健康 ⑦	14	高齢者と健康 ⑧	15	科目認定試験
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ①																																		
2	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ②																																		
3	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ③																																		
4	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ④																																		
5	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑤																																		
6	老化にともなう身体的な変化と生活への影響 ⑥																																		
7	高齢者と健康 ①																																		
8	高齢者と健康 ②																																		
9	高齢者と健康 ③																																		
10	高齢者と健康 ④																																		
11	高齢者と健康 ⑤																																		
12	高齢者と健康 ⑥																																		
13	高齢者と健康 ⑦																																		
14	高齢者と健康 ⑧																																		
15	科目認定試験																																		
評価方法	科目認定試験と小テストの合計点が60点以上を合格とする																																		
自由記述 (メッセージ)	生活支援技術の根拠となる知識を習得し、人生のあらゆる段階、とくに老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践につはげてほしい。																																		

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	認知症の理解 I		必修	1年後期	15コマ・30時間
担当教員	伊東寛	背景	介護福祉士職歴14年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
<b>授業概要</b> 認知症の基礎的理解、特に認知症の中核症状・BPSDについて理解を深め、尊厳に配慮したケアとは何かについて考える。また、医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症とは何か」ということを簡潔に、家族や関係者や地域で説明ができる。</li> <li>・4大認知症やケアの基本について説明できる。</li> <li>・「こころとからだ」の領域にある意味について理解できる。</li> <li>・ケアは、いろいろな職種の人たちとの連携によって行われることが説明できる。</li> </ul>					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の基本的な学びを、実習や地域ボランティア、ひいては就職に活かしていく。</li> <li>・目の前の認知症の方の症状にのみ着目するのではなく、全人格的に理解できるスキルや習慣を「認知症の理解」の学習を通して身につけ、実務に活かしていく。</li> </ul>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	認知症とは何か				
2	脳のしくみ				
3	認知症の人の心理的側面の理解				
4	中核症状の理解①				
5	中核症状の理解②				
6	生活障害の理解				
7	BPSDの理解①				
8	BPSDの理解②				
9	認知症の診断と重症度				
10	認知症の原因疾患と症状・生活障害①				
11	認知症の原因疾患と症状・生活障害②				
12	認知症の原因疾患と症状・生活障害③				
13	認知症の原因疾患と症状・生活障害④				
14	認知症の治療薬、認知症の予防 1年生のまとめ				
15	筆記試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格 (レポート、課題小テスト、授業参加度なども考慮)				
自由記述 (メッセージ)	認知症高齢者の心理的理解に力を入れます。ペア学習やグループワークなど多く取り入れ、学生参加型の授業です。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	認知症の理解Ⅱ		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	伊東寛	背景	介護福祉士職歴14年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座第13巻 認知症の理解 中央法規				
<p><b>授業概要</b></p> <p>認知症の人と生活の場での介護、連携と協働、本人や家族の支援、認知症の人の生活支援の事例検討を行う。また認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する。</p> <p><b>狙いと到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症当事者が語り行動する意味について考える。</li> <li>・認知症の人の様々な生活の場や介護、連携と協働について学ぶ。</li> <li>・グループで事例の検討や、介護過程的な発表ができる。</li> <li>・最終学年生として、認知症の原因疾患や評価、症状や認知症ケアなどのついて説明や応用ができる。</li> </ul> <p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b></p> <p>認知症に関する専門知識を、時事問題や新オレンジプランなども含め総合的に整理・学習します。「認知症の当事者」や「家族」、「地域」という視点も加え、実習や就職、卒業研究につながる学びをします。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	認知症を取り巻く状況 これまで—今—これから				
2	認知症ケアの理念と視点				
3	認知症当事者の視点からみえるもの(長谷川和夫先生)				
4	パーソン・センタード・ケア				
5	認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメント・ツール				
6	認知症の人とのコミュニケーション				
7	認知症の人へのケア				
8	認知症の人へのさまざまなアプローチ				
9	認知症の人の終末期医療と介護				
10	環境づくり				
11	家族への支援(ヤングケアラー含む)				
12	介護福祉職への支援、事例検討				
13	制度、サービス、機関、地域づくり				
14	多職種連携と協働、「認知症の心理的側面の理解」「認知症ケアの理解」まとめ				
15	筆記試験				
評価方法	科目認定試験が60点以上で合格 (レポート、課題小テスト、授業参加度なども加味)				
自由記述 (メッセージ)	実習Ⅱの受け持ち利用者さん、卒業研究発表は、ほぼ大半が認知症が想定される方です。しっかりとした土台づくりと、他科目との連携を。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	障害の理解 I		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	小山晶子	背景	臨床職歴 15 年	教育歴8年	
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ				
授業概要	障害の特性と基礎を理解した上で支援方法を考えることができる。また必要になる社会資源と専門職連携を把握し、介護福祉士として対象者の適切な計画立案や生活支援に生かすことができる。				
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人のところや身体機能・障害に対する理解と支援方法を学び、具体的に考えを述べることができる</li> <li>・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援を理解できる。</li> <li>・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有できる。</li> <li>・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じ、自他の相違を認めることができる。</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	自身の経験を交え、科学的根拠に基づいた知識の重要性と対象者理解に役立つ視点がどのような点であるか理解できるように講義を実施する。また、実習や臨床で生かせるように他者との意見交換や自身の意見やアセスメントを深めることができるようグループワークや意見の可視化(文章化)を意識的にする講義にしていく。				
授業計画・内容					
1	障害の概念と基礎的理解				
2	運動機能障害の基礎				
3	運動機能障害のある人の生活支援を考える				
4	内部障害 ①心臓機能障害の基礎				
5	心臓機能障害のある方の生活支援を考える				
6	②呼吸機能障害の基礎				
7	呼吸機能障害のある方の生活支援を考える				
8	③腎臓機能障害の基礎と生活支援を考える				
9	④膀胱・直腸機能障害の基礎				
10	膀胱・直腸機能障害の基礎のある方の生活支援を考える				
11	⑤小腸機能障害の基礎知識と生活支援を考える				
12	⑥肝臓機能障害の基礎と生活支援を考える				
13	⑦ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の基礎と生活支援を考え				
14	まとめ				
15	科目認定筆記試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格 授業・グループワーク参加度を加味し、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	教科書を忘れずに持参してください。 授業中に自分の意見を書いたり、話したりすることが多いので、授業前に教科書を読んで予習をしましょう。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	障害の理解Ⅱ		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	熊本恵美子	背景	臨床職歴31年	教育歴8年	
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	①中央法規出版 最新介護福祉養成講座 14 障害の理解 ②中央法規出版 最新介護福祉養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 参考書・・・中央法規 介護福祉士 国試ナビ2023				
授業概要	障害の概念を理解し、各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を習得する。				
狙いと到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人のところや身体機能に関する基礎的知識が理解できる。</li> <li>・障害のある人の生活体験を感じることができる。</li> <li>・本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点と生活支援技術を理解できる。</li> <li>・グループワークで自分の体験や考えを述べるとともに、他者の体験や考えを共有できる。</li> <li>・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じ、自他の相違を認めることができる。</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか	臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。受講生が既習知識や実習での体験を想起し、具体的に考えイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。				
授業計画・内容					
1	視覚障害のある人の理解:	①基礎知識			
2		②生活支援技術			
3	聴覚障害のある人の理解:	①基礎知識			
4		②生活支援技術			
5	言語に障害のある人の理解:	①基礎知識			
6		②生活支援技術			
7	発達障害のある人の理解:	①基礎知識			
8		②生活支援技術			
9	精神障害のある人の理解:	①基礎知識			
10		②生活支援技術			
11	高次脳機能障害のある人の理解:	①基礎知識			
12		②生活支援技術			
13	難病のある人の理解:	①基礎知識			
14		②生活支援技術			
15	科目認定筆記試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格 授業・グループワーク参加度を加味し、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業で理解した各障害に応じた生活介護支援の基礎的知識を、実践での個別的な介護支援に活用できることを期待する。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみ I		必修	1年前期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだのしくみと働きを理解する。</li> <li>・こころのしくみと働きを理解する。</li> <li>・移動に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> </ul>					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体各部の名称を理解し、介護の場面で使うことができる。</li> <li>・こころのしくみと働きを理解し、介護場面での相互理解ができる。</li> <li>・移動に関するからだのしくみと働きが理解できる。</li> <li>・移動に関する技術を安全に提供するための根拠につなげることができる。</li> </ul>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
授業計画・内容					
1	からだのしくみの理解① 身体各部の名称				
2	からだのしくみの理解② 骨、関節				
3	からだのしくみの理解③ 骨格筋				
4	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動のしくみ				
5	移動に関連したからだのしくみ①座位姿勢と立位姿勢 教室演習				
6	移動に関連したからだのしくみ②仰臥位 側臥位 座位 歩行 教室演習				
7	ボディメカニクス				
8	心身機能の低下が移動に及ぼす影響① 廃用症候群 褥瘡				
9	心身機能の低下が移動に及ぼす影響② 麻痺 変化の気づきと対応				
10	からだのしくみの理解④ 呼吸器系				
11	からだのしくみの理解⑤ 循環器系				
12	からだのしくみの理解⑥ 脳・神経				
13	こころのしくみの理解① 人間の欲求				
14	こころのしくみの理解② 適応・適応機制				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を理解するための基礎となります。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅡ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ				
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> <li>・身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> </ul>					
<b>狙いと到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。</li> <li>・食事に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。</li> <li>・身じたくに関するからだのしくみとはたらきが理解できる。</li> <li>・身じたくに関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。</li> </ul>					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	食事とは 食事に関連したこころのしくみ				
2	食事に関連したからだのしくみ				
3	食べるしくみ ビスケット演習				
4	食事の姿勢 食事の形態と治療食				
5	心身機能の低下が食事に及ぼす影響				
6	口腔ケア				
7	変化の気づきと対応① 嚥下障害 脱水				
8	変化の気づきと対応② 誤嚥 窒息				
9	身じたくのしくみ① 爪				
10	身じたくのしくみ② 毛髪				
11	身じたくのしくみ③ 顔 耳 鼻				
12	身じたくのしくみ④ 眼				
13	衣生活① 教室演習				
14	衣生活② 心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				

自由記述 (メッセージ) 「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を  
理解するための基礎になります。

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅢ		必修	1年後期	15コマ30時間
担当教員	善平弘子	背景	看護師職歴9年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 II				
<b>授業概要</b> ・排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。 ・清潔に関連したこころとからだのしくみを理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・排泄に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・排泄に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。 ・清潔に関するからだのしくみとはたらきが理解できる。 ・清潔に関する技術を安全に行うための根拠が理解できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 人体の構造・機能の知識を生活支援技術を提供するうえでの根拠の理解に生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	排泄に関連したところのしくみ				
2	排泄のしくみ① 排尿				
3	排泄のしくみ② 排便				
4	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①精神・判断力の低下 ADLの低下				
5	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②排尿障害				
6	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響③排便障害				
7	変化の気づきと対応 陰部洗浄				
8	入浴・清潔保持のしくみ①皮膚の構造とはたらき				
9	入浴・清潔保持のしくみ②発汗のしくみ 皮膚の汚れのしくみ				
10	心身の状態に応じた清潔① 入浴とは				
11	心身の状態に応じた清潔② 入浴・清拭とは				
12	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響① 皮膚機能の低下 視覚機能の低下 聴覚機能の低下				
13	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響② 運動機能の低下 心疾患・呼吸器疾患 医療的ケアを受けている人 認知機能の低下				
14	変化の気づきと対応 入浴での事故と対応				
15	科目認定試験				
評価方法	小テストと科目認定試験を合わせて評価する。				
自由記述 (メッセージ)	「生活支援技術」「発達と老化」「障害の理解」「認知症の理解」などの教科を理解するための基礎になります。				

課程	社会福祉専門課程	学科	介護福祉科		
授業名,属性	こころとからだのしくみⅣ	必修	2年前期	15コマ30時間	
担当教員	平山純子	背景	看護師職歴8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規				
<p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ」を理解する。</li> <li>・「人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ」を理解する。</li> </ul>					
<p>狙いと到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的な「休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ」を理解し、生活支援技術の根拠を考え応用できるような学びとする。</li> <li>・人間の基本的な「人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ」を理解し生活支援技術の根拠を考え、応用できるような学びとする。</li> </ul>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>「こころとからだのしくみ」と「生活支援技術」のそれぞれをつなげることができ、介護に生かせることができるような授業にしたい。</p>					
<p>授業計画・内容</p>					
1	休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識				
2	休息・睡眠のしくみ ①				
3	休息・睡眠のしくみ ②				
4	心身の機能低下が及ぼす睡眠への影響 ①				
5	心身の機能低下が及ぼす睡眠への影響 ②				
6	変化に気づくためのポイント				
7	「人生の最終段階における死」のとらえ方 ①				
8	「人生の最終段階における死」のとらえ方 ②				
9	「死」に対するこころの理解 ①				
10	「死」に対するこころの理解 ②				
11	「死」に対するこころの理解 ③				
12	終末期から「死」までの身体機能の特徴				
13	臨終期から死後のからだの変化とその対応				
14	死生観				
15	科目認定試験				
評価方法	科目認定試験において60点以上で合格				
自由記述 (メッセージ)	「休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ」「人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ」の2つの章を学ぶ授業である。介護をする上で必要な根拠となるこころとからだのしくみを理解してほしい。				